

酪農起業・将来の夢に向かって GO

三次市地域おこし協力隊員

河本卓哉さんを受け入れ



(写真左 橋本洋資会長、写真右 河本卓哉さん)

広酪では、三次市酪農振興会(会長 橋本洋資)との間に事務受委託契約を交わして、同振興会の活動にあたり側面的支援にあたっています。

同振興会は、酪農業の廃業に伴い空き牛舎の増加などが進む中において、同産業の衰退に歯止めをかけ活性化を図ることができないかとの思いから、三次市が行う「三次市地域おこし協力隊員(酪農業支援事業)の募集」を求め、この行動にあたり、同振興会の役員会や総会において、この趣旨と行動へ

の会員合意を取り付け、平成二十七年八月三十一日付けで三次市(定住対策課)宛に「三次市地域おこし協力隊(酪農業支援事業)」の募集手続きを進められました。

同市では、この申請を受けてホームページを活用して、全国に三次地域おこし協力隊員の募集を発信された結果、河本卓哉さんからの応募があり、同市では四月二十四日の選考会を経て、平成二十九年六月一日付けで協力隊員としての委嘱を決定されました。

この経過を踏まえて、同振興会から広酪に対して、隊員の活動拠点の設置及び将来の酪農業への就農等が実現できるよう座学や三次市管内の酪農家宅での酪農経験、酪農ヘルパーの体験等のカリキュラムをもつて、隊員による主体的な取り組みへの支援と協力を求められました。

広酪では、同振興会からの依頼に応じることとし、隊員による将来の酪農業への就業もしくは、酪農関連産業等への就業に向けて支援にあたっています。

六月一日

日々徒然

かがやき



▼五月の晴天下で農作業に励まれた方も多いことと思いますが、これから季節は真夏に向かいます。炎天下での脱水症状や熱中症には

▼田植えが終わると、田園風景をより色鮮やかに際立たせてくれた水田が一部地域では一変して、水不足に悩まされ、水田が干上がり、ひび割れた土に植えつけられた苗が息苦しそうになびいている様子が見られました。その近辺では、川からポンプで水を汲み上げたり、話し合いで水を分け合ったりと、水不足の地域には深刻な問題が生じました。

▼近年、猛暑や異常気象が気になります。何かとお騒がせのトランプ大統領は、地球温暖化対策の国際ルール「パリ協定」から離脱を表明しました。温室効果ガスの排出国として、中国に次ぐ世界第二位の米国の離脱は、今後の地球環境にどのような影響を与えるのでしょうか。

▼日本も熱帯気候へと化し、突発的・局所的な強風と豪雨、落雷など、まるで異国のスコールを思わせる天候変化も身近に感じられ、これからの地球環境への変化が懸念されます。

▼話題は一転して、テレビ等では若者の活躍が目をひきます。野球では早稲田実業の清宮幸太郎選手(十八歳)が史上二人目となる高校通算百号達成。サッカーでは、若千九歳で世界的名門バルセロナに認められ、中学生ながらJリーガーとして活躍する久保建英選手(十六歳)。

▼併せて、その生い立ちや努力、負けん気、親の教育姿勢等も報じられ、これらを読み解くと「天才」との一言では片づけられない、それぞれの苦労や努力の礎のうえに成果があると感じられます。

▼この成功の裏に何があるのか? 「成功を意識した目標に向けての『自らの努力』」、「周囲からの支え」からなされる成果。これらの相乗効果と意識が大切なのでしょうか。

(T・Y)

